

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズ・ユ- mirai		
○保護者評価実施期間	2026年2月13日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年2月13日		～ 2026年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に沿った学習支援・個別支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の支援記録や情報共有をもとに、個別支援計画会議やモニタリング会議を実施し、計画を作成している。 作成した個別支援計画は、支援にあたる職員間で共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画に常勤職員だけでなく非常勤職員の意見を反映しやすい仕組みをつくる。 児童それぞれに合った学習支援・個別支援を充実させ、満足度をあげられるようにする。
2	子どもと家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談を定期的を実施しており、要望や相談を受ける機会を設けている。 「HUG」等を通して、日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、様子や状況を共有している。必要に応じてメッセージや電話での連絡を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションツール（ZoomやLINE電話等）を活用し、面談の機会を増やす。 日々の様子や活動状況については、「HUG」上のコメントだけでは、伝わりにくいところもあるため、他の方法も検討していく。
3	子どもが安心感をもって通所している。共感的に支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人に合わせて支援計画を立て、支援を実施している。 職員の資質の向上を図るために、年間スケジュールに沿った研修を行っている。朝礼時にテーマを設けて研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童が安心感をもって通所できる環境を整えていく。 職員の資質の向上を図るために、積極的に研修等を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他の子どもと交流、活動する機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂やキッチンカーのイベント等、地域に向けたイベントを開催しているが、不定期開催となっており、認知度が低い。 地域に向けたイベント開催時は、周知不足により、地域の他の子どもや家族に参加いただくことが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂の開催頻度を増やし、誰もが気軽に立ち寄れる居場所をつくる。 キッチンカーや季節に合わせたイベントを企画し、積極的に周知することで、地域交流の場を広げる。 バトミントン教室をはじめ、様々な教室や大会を通して地域との交流を深める。
2	家族支援プログラム、家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ない。保護者同士やきょうだい同士が交流できるイベントやプログラムが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 夏祭り等で家族交流の場を設けていたが、開催頻度が少なく、ご参加いただけるご家庭が限られていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者交流会や、保護者相談会、セミナー等を開催し、悩みを共有し、解決につながる場をつくる。
3	避難訓練等の取り組みや、非常事態の対応マニュアル、安全を確保するための計画についての周知が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練等の取り組みについて、周知や説明ができていなかった。 緊急時等の対応マニュアルや安全を確保するための計画について、保護者に向けて周知や説明をする機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種ツールを活用して、避難訓練等の取り組みや、マニュアルや計画の周知や説明を行っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ウイズ・ユ- mirai					公表日	2026年2月25日	
						利用児童数	46名(保護者 42名)	回収数 34名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	3		5		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	2		7		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26	4		4		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30	2		2		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	5		2		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	30	2		2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	30	1		3		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28			6	悩みを聞いていただき感謝しています。	ご意見ありがとうございます。相談の受け付け体制を、より一層整えられるようにしていきます。今後ともよろしく願っています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	31	1		2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25	2		7		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	2	5	17		子ども食堂の定期開催、キッチンカーや季節に合わせたイベントの企画、パトミントン教室等を通して、地域交流の機会を積極的に増やしていきます。
保護者への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33			1		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28	2	1	3		個別支援計画の作成時は、ご家庭に提示させていただいております。ご意見やご質問には丁寧に対応させていただいております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	21	4	1	8	ペアレントトレーニングお願いしたいです。	ご意見ありがとうございます。家族支援プログラムの設定、ご家族に向けた研修会、交流会等を設定できるように検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	26	5		3		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	30	2		2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	32	1		1		

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	3	1	13		定期的に保護者交流会、相談会、セミナー等を開催し、悩みを共有し、解決につながる場をつくることができるようにします。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	1		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	32	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	31	2		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25		1	8		個人情報の取扱いについては、必要な対応を行っております。今後も十分に留意していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	21			13		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	3		18		避難訓練等の実施時は、周知や説明を行うようにしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	2		12		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25	1		8		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	7		3		
	29	事業所の支援に満足していますか。	31	2		1		

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		ウイズ・ユーマイ		公表日		2026年2月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童に合わせて、利用場所を調整している。	利用される児童の数が特に多い日には、スペースが狭いことがある。1階、2階、事務所のスペースを活用しながら調整していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用申込みの状況を見て調整している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		スロープを設置している。それぞれのスペースに利用する際の約束などをイラスト付きで提示している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃を徹底している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		1階、2階のスペースと事務所を活用しながら、状況に合わせて個別に過ごせるように臨機応変な対応をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			PDCAサイクルを回す頻度を増やす。非常勤職員とも情報共有を行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表の実施や、アンケート、面談の実施を通じて保護者等の意向等を把握する機会を設けている。	保護者の意向等を、より業務改善に反映させるための取り組みが必要である。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		メンター制度を実施している。朝礼時に情報共有や意見交換を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は実施していないが、今後検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間スケジュールに沿った研修を行っている。朝礼時にテーマを設けて研修を行っている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			現在公表しているプログラムよりも更により良いものを作成していきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個別支援計画会議、モニタリング会議を実施し、計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画会議、モニタリング会議を実施し、計画を作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		連絡・記録・管理システムツール「HUG」を通して、共有している。	非常勤職員を含め、職員間での個別支援計画の周知を徹底していきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		連絡・記録・管理システムツール「HUG」を通して、確認している。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画には、必要な項目と具体的な支援内容を設定している。	「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目にあたる支援については、今後取り組みを強化していきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		常勤職員を中心に、非常勤職員も含めて意見交換や情報共有をしながら実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		お仕事体験やイベントの内容などは、状況に応じてその都度計画している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			学習支援の個別活動が中心となっている。集団活動の要素を増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	勤務している職員間で個別に支援についての相談や情報共有を行っている。	朝礼を実施できない日は、全体での打合せができていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			終業時刻が異なるため、当日中の打合せや振り返り、情報共有はできていないが、HUG等を活用して記録や情報の共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援に関して記録をとることを徹底している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「4つの基本活動」を基に、組み合わせて支援している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容、学習内容、学習のペース等を児童と相談し、自分で選択できるようにしている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		施設管理者または児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		学校等とは、情報共有を行う機会が少ない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との連絡調整が必要な際には、適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		ご利用の対象が中高生を中心としている施設のため、該当の機関と連携する機会は少ない。必要な場合は連携を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先等に求められた場合は、情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		発達部会等で研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	子ども食堂やキッチンカーなどを実施し、地域との交流を図っている。	地域交流に向けたイベントや活動などを増やしていきたい。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加している。		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡・記録・管理システムツール「HUG」を通して、共有している。必要に応じて電話連絡を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		夏祭り等で交流の場を設定し、情報提供を行う機会を設けている。	保護者会やその他の家族交流イベントなどの機会を増やしていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			保護者や児童の意向等を踏まえて、定期的にサービス提供を見直す機会を設定していきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画の作成時、更新時は保護者から同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に保護者面談を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会や交流イベントを開催している。	保護者会やその他の家族交流イベントなどの機会を増やしていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等やHUGを通して活動予定や行事予定を発信している。	HPやSNS等を利用した発信を増やしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		子ども食堂やキッチンカーなどを実施し、地域との交流を図っている。	地域交流に向けたイベントや活動などを増やしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に避難訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期的にアセスメント調査票の記入を保護者をお願いし、確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		定期的にアセスメント調査票の記入を保護者をお願いし、確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に安全管理に必要な研修と避難訓練を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		安全計画は周知していないが、避難訓練等を実施した際は、連絡ツールを通じて家族等に共有している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを事業所内で共有している。	ヒヤリハット報告書を積極的に作成、共有するようにし、対策を検討する機会を増やしていきたい。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のための対策検討委員会の設置、研修等を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束等の適正化のための対策検討委員会の設置、研修等を実施している。	